

令和5年度

施設関係者評価表

社会福祉法人 博乃会

認定こども園 日吉台保育園

令和4年度 自己評価結果公表シート

社会福祉法人 博乃会 認定こども園 日吉台保育園

1、本園の教育目標

法人の方針である「知育」「体育」「徳育」の三つの柱を基に教育目標を立て、一人一人のあるがままの姿を受け止め、共感し、子どもの豊かな育ちを援助出来るように努めていく。また、「人の話を聞く事」「集中して取り組む事」に重点を置き、頭の良い子に・心豊かな子に・意欲溢れる子にバランス良く育て、自分で物事を考え、自己を充分に發揮出来る環境を整え、職員が共通理解の元、子ども主体の教育及び保育の実践を行っていく。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

今年度も感染症に考慮し、行事の開催や取り組み方法を職員間で密に話し合い、検討しながら進めいく。
また、幼保連携型認定こども園 教育・保育要領に基づいた、教育及び保育を展開し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置き、園全体が話し合いの場を持ちながら、年間のカリキュラムを計画していく。
本年度は、「園児の体力の向上」を目標に掲げ、年齢に応じた発達段階を踏まえ、日々の活動の中で全身を使った遊びを取り入れ、無理なく、運動機能の発達を促し、体力の向上を目指していく。

3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
幼稚園の教育課程の編成・実施に関して、教職員間の共通理解をはかる。	全体的な計画に留意しながら、職員間で園児一人一人の発達の状態に関する情報を共有し、教育目標を明確化するよう話し合いを進め、共通理解出来るようにしていく。
幼稚園の状況をふまえて、中・長期的なビジョンと計画を策定する。	園と家庭が協力して、子どもが就学までに身に付く事を目標に援助していく。また、家庭、地域社会の連携、子育て支援の拠点としての役割を担っていく。
教育の質の向上のために、園内研修を充実させる。	研修計画を立て、定期的に実施している。 ■心肺蘇生法、エピペン、SIDS研修 ■感染症研修 ■人権研修 ■キャリアアップ研修 ■栄養士研修
保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応をはかる。	保護者との懇談を実施し、出された意見に対して、必要な内容については園の考え方を示し、改善すべきものは改善するように取り組んでいる。

教職員の指導能力向上	<p>様々な分野の研修会に参加する事で、学んだ事を全職員が共有出来るよう、園内研修を行い、全職員で専門知識を習得し、指導能力の向上に努めている。また、スイミング、ダンス、絵画等、専門講師に指導を受ける事で技術向上を図っている。</p> <p>毎日のミーティングでは、子どもの様子や保護者からの意見・要望について、報告・連絡・相談の場を設けて情報を全員が共有する環境を作っている。</p>
権限委譲と人材の育成	年度初めに、各種マニュアルや行事への取り組みについての話をする機会を設け、基本的な仕組みや取り組みの流れを知り、各分野別に担当を決め、経験がある職員と浅い職員がチームを組み、無理なく年間を通しての職務を覚える事で自立した職員の育成に努めている。
園児に接する時の基本姿勢を周知徹底	<p>子どもを尊重する保育を進める為、セルフチェックリストを用い、研修を行い、一人一人の職員が子どもの人権を守る意識を高めていくように取り組む。</p> <p>また、生活の積み重ねの中で、人に対する愛情と信頼感等、道徳性の芽生えを培う為には、職員が手本となっていくよう日々のミーティングや職員会議等で周知徹底をする。</p>
保育終了後の延長保育	標準時間である11時間保育終了後に延長保育時間を設ける事で、育児と就労の両立の手助けとなるように取り組んでいる。延長保育を利用している園児にとっては、長時間保育となる為、大きな負担とならないよう、ゆったりと落ち着いて過ごせるよう保育内容の充実を図る。
食育に関する実践	<p>季節毎に旬の食材を取り入れたメニューを考え、子どもたちが季節感を味わいながら食を楽しめるよう工夫している。また、毎月行っている食育活動を通して、年齢に応じた食事マナーや栄養に関する知識を伝えている。</p> <p>保護者には、献立だけではなく健康や栄養情報の知識や食事作りのアドバイスを実施し連携を取っている。</p> <p>食育だより、給食写真の掲示をし、食に関心をもってもらう工夫も行っている。</p>
幼稚園の情報を発信	園の教育方針や取り組み状況をホームページや園だより、その他のプリントで情報発信している。
園舎・園庭などの環境整備	日々、園庭の遊具や整備を行い、戸外遊びの際に怪我や事故がないよう、環境整備を行い、気温に応じて遮光ネット、テントを設置し、子どもの過ごしやすい環境を整えている。室内では、取り組みに応じて環境が整っているかどうか職員間で話し合い、事故防止に努めている。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

法人の方針や目的を遂行し、保育・教育を計画的に行う事が出来た。様々な分野での研修を取り入れた事で職員一人一人が専門知識を身に付け、保育の実践に役立てながら年間計画に反映して進める事も出来、職員の個々の資質の向上やモチベーションの維持にも繋がった。

また、新型コロナウイルス感染症が5類となり、今まで見合わせていた行事も人数制限や取り組み内容を留意しながら開催となつたが、行事の為の取り組みではなく、日々の積み重ねを保護者に見て頂く機会として無理なく進める事が出来た。

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
特別支援教育	<p>カウンセラーにクラスを巡回してもらい、保護者の気持ちに寄り添い、教育委員会や小学校との連携を取っていく。</p> <p>また、発育や発達に心配のある子どもに対しては、個別に懇談を行い、児童発達支援や療育との連携を図り、個々に心身の発達への援助をしていく。</p>
園に対する保護者の満足度の把握	卒園児を対象に、保育内容、職員対応、園の体制等に対するアンケートを用い満足度の把握に努めている。
安全管理	<p>幼稚園施設設備指針第8章(防犯計画)に基づき、ハード・ソフト両面から適切な防犯体制を整えている。</p> <p>消防法第8条(防火管理者)により、防火管理者を定めて防火管理を行っている。</p> <p>幼稚園施設設備指針をふまえ、安全管理・衛生管理に努めている。</p> <p>毎月行う避難訓練や年4回の地震時訓練、防犯訓練を実施し、避難訓練では、消防署の指導も受けながら避難訓練の内容充実を図る。</p>
自然災害時の危機管理体制の構築	<p>非常時の危機管理について、子どもの引き渡し方法を含めた災害対応マニュアルを定期的に教職員間で確認を行う。</p> <p>常に最新のニュースや気象情報を得られるような環境づくりを実施。</p> <p>※暑さ指数やPM2.5などの情報も考慮し保育を行う。</p>
保護者への情報提供とより正確な要望把握	入園時や個人懇談をとおして当園の教育方針や園を取り巻く情報を提供したり、要望の把握をしたりしている。
特別支援教育の充実	<p>発達障害やグレーゾーンの子どもを含め、一人一人の発達や成長にあわせた指導計画を作成し、集団生活へのスムーズな移行を図る。</p> <p>支援を要する子どもへのアプローチについて、児童発達教室や療育と連携を図る中で個々の発達に添った継続的支援の充実を図っていく。</p>

1. 学校関係者の評価

子ども主体の教育及び保育の実践を遂行されている事が感じ取られた。子ども一人一人があらゆる能力を遊びや生活を通して身に付け、自然に発達を促していく保育方針に賛同出来る。

新型コロナウイルス感染症が5類になり、様々な行事や取り組みを行う事が出来、保護者は、子どもたちの成長を感じる

事が出来る機会が多くあり、新型コロナウイルス感染症が流行する以前の園の保育に戻りつつある為、今後も良い環境で保育が継続出来るよう、より一層、職員間の協力体制を強化し、保護者、子ども、職員が同じ思いで一丸となり進めていけるように努めていってほしい。